

## シリーズ・いま、世界の子どもの本は？

### 第 1 回

#### 第一部 開会記念講演 魔女からみた世界の子どもの本 (要旨)

平成 22 年 6 月 26 日

講師：角野栄子

#### 海外の魔女のイメージ

---

これらは、海外で翻訳された私の作品『魔女の宅急便』の表紙です。皆さんご覧になって、驚かれたと思います。それぞれの国によって、キキという魔女がこんなふうに変っていくことに、私もちょっとびっくりしました。案の段階で表紙を見て、「私の魔女は、もっとかわいいのよ」と言って、描き換えてもらったこともあります。

どうということだろう?と考えると、「魔女」という言葉のせいではないかと思いました。特にキリスト教社会では、魔女は恐ろしい人と思われています。『魔女の宅急便』の英語版で、タイトルには"witch"を出さず、"Kiki's delivery service"にした方がいいと言われたこともあります。witch という言葉と、私がイメージするものとはだいぶ違うようです。

#### アンデルセンの魔女のイメージ

---

たとえば、『人魚姫』に出てくる魔女なども、よくまあこんなふうイメージするなあ!と、はるか昔のアンデルセンに思ってしまいます。人魚姫は、脚の生える薬をもらうために、ものすごい渦の中を海底の魔女のところまで行く。魔女は、蛇をたわしにしてお鍋を洗い、自分の胸をかきむしって黒い血を出して薬を練る。そうすると、その薬はぴゅーぴゅーとワニのような声で鳴く、ということです。その薬を飲んでやっと「二本のつかい棒」ができて、人魚姫は王子のそばに行けるわけです。そういったすさまじい魔女観がずっとあったんですね。

#### ドイツの魔女

---

ドイツ語で「魔女」は「ヘクセ(Hexe)」と言います。語源をたどると「垣根の上にのぼる人」という意味だそうです。垣の上において、見える世界と見えない世界、こちらはろうそくも灯っているけれど、あちらは夜になると真っ暗になってしまう、その間に存在していた人として、この言葉はもしかすると、宗教的なものが混ざらない時代の魔女の姿を色濃く残してるんだろ

うな、と知っているんです。ドイツでは、街の扉を開けて、ふだん真っ黒の闇の中に住んでいる人たちを、お祭りの間だけ入れる、というお祭りもあります。そういうふうに、みんな死や闇の世界に恐れを抱いている、でもなんとか健康で幸せでいたい、その強烈な願いがあり、そこから想像力が働いているんなものが生まれてくる。文学や宗教もきっとそういうところから始まっているんじゃないかと思います。

### 人の願いを運ぶ少女キキ

闇や死への怖れから、そうでないものに対しての願いを人はだれでも抱くと思うんですね。私が書いたキキという少女も、13歳の年にそういう願いを持って旅立ちます。コリコの街でキキは目に見えないものと目に見えるものを同時に運んでいると私は思っています。形あるものだけでなく、その形の中に込められた「思い」もある。おじいさんの散歩を運んでみたり、ラブレターを運んでみたり、垣根の向こうとこっちを行ったり来たりしながら、彼女は成長していく。本の表紙は国によっていろいろですが、その心根は、どこも同じじゃないかなと私は思います。健康でありたい、健やかな精神を持ちたいという気持ちはだれもがもっている、だからこそ私の物語も皆さんに読んでいただける。私は、見える世界と見えない世界を行ったり来たりする心の動きから、エネルギーが生まれてくる、そういう一人の少女が、力を持って生きていく姿を書いてみたいと思ったのです。24年間かかりましたが、『魔女の宅急便』は、昨年(2009年)10月に6巻目で完結しました。

### ルーマニア、吸血鬼の故郷

今年(2010年)5月に、ルーマニアに行ってきました。2回目でした。1度目は『魔女に会った』という本を書くための取材で、ハンガリーに近い地方に行きました。

今回はまず、ブラン城へ行きました。その昔、ヴラド・ツェベシュ(Vlad Tepes)という王さまが住んでいたところ。そのあたりは民族間の戦いが絶え間なく、その王さまは敵を捕まえては串刺しにした、っていうんです。そういう絵が残ってる。その後彼はオスマントルコとの戦いのときに捕まるもののトルコ人の服を着て逃げだす。やっと帰ったらトルコ人と間違われて串刺しになってしまった、という。この話は物を書く人の心を刺激したとみえて、それが元で小説「吸血鬼ドラキュラ」が生まれたとかで、ルーマニアやその周辺のスラブ地方は、ヴァンパイアのふるさととされています。

昔、病気が流行ってバタバタと人が死んだときに、死んだかどうかわからない人もさっさと埋めちゃった。「早すぎる埋葬」と言ったそうですが、そういう人たちがふーっと起き上がって、お墓から出てきた。これは怖いですね、相当怖い。それが生き血を吸って...というような話にどンドンなっていて、吸血鬼伝説があちこちで生まれた。うわさがうわさを生み、ちゃんと死んでるはずの人も、もしかしたら死んでないかもしれない。そうすると今度はお墓を

暴いて、トネリコの木で刺した、というんです。

### トネリコの木

それで私、トネリコの木ってどんな木なんだろう？と思ったんです。魔女のほうきの柄もトネリコの木や枝で作ると言われているし、北欧神話にも不思議な木として描かれている。そしてインターネットで調べてみたら、私の家の庭にもある木だったんですよ。お向かいの家から種が飛んできて、三本くらいヒョロヒョロしたのが立ってる。どうしてこんな平凡な、種がどこへでも飛んで居つくような木が用いられたのか、とても不思議です。木によっていろいろ役割があるというのも面白い話だなと思います。

### 宗教と魔女

かつて船でブラジルまで行ったとき、イギリス人の男の子と台湾の青年とポーランドの兄弟と仲良くなりました。夕食後いつもかくれんぼなどしながら遊んでいたのですが、あるとき宗教の話になりました。私は仏教徒の家に育ちましたが、私の中に宗教は強くはない。そのときに外国の人と宗教の話をしてはいけないと骨身にしみて思いました。だって大変なんですよ、「処女懐胎なんてあるわけじゃない」なんて言ったら大変なんです。それを、魔女は言っちゃったんじゃないか、って私は思うんです。魔女は何百年もの間、お産婆さんをしていたんですから、いわば当時の科学者だったのですから。

### 闇と光と自然と人間

ルーマニアの三分の一は森だそうですが、森は闇と深く関わりがあります。電気の明かりがなかった昔、夜は闇だったし、昼間でも深い森は闇だった。それが近代になって森をひらき闇の中に光が差し開発が進むにつれて、人と自然との関係が少しずつ崩れてきたのではないかと思います。自分の家族を大事にしようと、自然の中の神秘をよく見ようとした魔女の気持ちみたいなものが、そこで変わってしまった。身の丈のもので満足していたのが、もっと何か欲しいという気持ちに変わった境目かな、と思うんです。

光を受け入れた人たちの中にも、やはり闇に対する畏敬の念やちょっと後ろめたい気持ちもある。ルーマニアの石で出来ている教会には、高い天井を支えるために中には柱がいっぱい立っていて、それがみんな木の形をしている。上の方には葉っぱの彫刻があって、そこにはグリーンマンが隠れているという。それについての本も出ているんです。見えない世界の何がしかをなくしちゃいけない、という気持ちがそこに現れてるのかなあ、と思いました。

### ルーマニアの教会と祈りの言葉

北のモルドバ地方には、世界遺産の素晴らしいフレスコ画の修道院があって、私もいくつか

見てきました。教会の中はもちろん、外側まで全部フレスコ画でした。当時、文字を読めなかった人たちのための宗教的な絵本だったわけです。言葉は絵なんだな、絵は言葉なんだな、と考えさせられる風景でもありました。

ルーマニア旅行中、ずっと運転手をしてくださった男の人が、自分はルーマニア正教だったけれどもプロテスタントに改宗した、と言うのです。理由を聞いたら、自分と神との中間に何か居るのがいやだ、と言うんです。おそらく独裁政権下、自由を奪われ言いたいことも言えない青春時代を過ごしたのだらうと思いました。以前、革命後1年半でしたが、取材で出会った農家のおじさんは、「今はあんに羊の肉団子をごちそうできるけれど、ちょっと前はできなかった、全部ナンバリングされて、自分で育てている羊でも食べることはできなかったんだ」と言ってました。そのような暮らしを彼もして、その経験から、イデオロギーや意味のある言葉が入ることに疑問を持ち、自分の願いをストレートに発することができる場に居たいと思って改宗したんだと私は思いました。

## 言葉と物語の力

---

言葉には音もあるし、言葉をつなげていくことによって「風景」もそこに浮かんでくる、そういう言葉の方が、意味以上に確かなんじゃないかと私はずっと思ってきました。何か言いたいときに皆と同じ言葉を使ってたら安心だけれども、それはもしかしたら大きな危険になるかもしれない。だから私は、魔女のように自分自身の目で見て、見えない世界も見て、想像力を動かし工夫をして、風景のある言葉で物語を書いていきたいと思ったんです。そうやって作品を書けば、だれでもがそのフィールドにやって来て、意味にとらわれることなくそれぞれ自由にその物語を読む。私はそれが一番いいんじゃないかと思います。従って私にはテーマというものがなく、読んでくださる方一人一人の中にその物語のテーマは生まれてくるだろうと思っています。どういう眼をもって私の本の中に隠されている見えない世界をどう読んでくださるか、自分のものとして感じてくださるか、それは全くの自由です。一人一人の方に伝わったときにまた新しいイメージーションが生まれてきて、そのイメージーションからエネルギーが生まれてきて、というふうになればいいなと思って、私は書き続けています。そのためには、健康でなくちゃいけない。言葉は健康にも影響されますので、健康で書き続けていきたいと思っています。どうもありがとうございました。